

異本毛氏由來記



【資料番号】	
資料番号	10000
資料名称	伊藤半助の書
資料形式	写本 1冊
冊数	異本毛氏由來記
冊次	1冊
冊名	
編者	
著者	伊藤半助
出版年	
出版地	
言語	
ジャンル	
備考	
備考	
備考	

Handwritten text in a cursive script, likely a manuscript or letter, written on aged paper. The text is arranged in several lines, though the characters are difficult to decipher due to the cursive style and fading. The script appears to be a form of Chinese calligraphy.

五
大
圖
書
館

陸のりも事なれども或は大抵麻は日採り
葉小は採集す大葉は日採りなりとも
中より採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも

麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも
麻を採集す大葉は日採りなりとも

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect, possibly a mix of Latin and a local language. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect, possibly a mix of Latin and a local language. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

本座の所為を以て山田海内山田海内
相繼いで居る所なり其の所為の如何なる
に依りて其の如何なるものなりと云ふ事
は如何なるに依りて其の如何なるものなり
右道長所為の如何なるものなりと云ふ事
亦亦年々其の如何なるものなりと云ふ事
如何なるものなりと云ふ事

丁山田海内山田海内
如何なるものなり

如何なるものなり
如何なるものなり
如何なるものなり
如何なるものなり
如何なるものなり
如何なるものなり
如何なるものなり

張之全者一清極矣其傳言其德性極高
在朝之時其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其

素南老... 德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其
德性極高其高節之清之德性極高其

志誠感通玄覽此位惟好出世
身命上遊渴望之望有靈期
朕之言正自靈應恩切神
疾疾愈先下之靈人報情
三月十日之靈力以結足身
靈出足之靈齊月之靈
角後入之靈花符七山玉珠

靈三二九
靈石之靈
千光之靈
靈靈保一天
靈靈如如
靈靈如如
靈靈如如

一

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

徳川幕府の御用金

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

有相違之有本義開行河六和利美

道先... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 切絕... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...

宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...
 宜令... 宜令... 宜令... 宜令... 宜令...

年の六法書法録を家規とす未だ
年次記し方録の中法書法録因方人
年次記し方録の中法書法録因方人
年次記し方録の中法書法録因方人
年次記し方録の中法書法録因方人
年次記し方録の中法書法録因方人

美七七五七〇の事六題賦の事
盛徳の相承を五相承可任有徳意
中成論の事相承元法元法元法元法
元法元法元法元法元法元法元法
元法元法元法元法元法元法元法
元法元法元法元法元法元法元法
元法元法元法元法元法元法元法

宿平心懷物道言言三喜收心謝去云

周素人馬之頓殊且亦進發 碎碎人

人勇其心以婚請使子之廣進以道若

山銀地不如此者人合五人之上位也

若其心之隨信向清結之客之使也

其心之其有負也其也其也其也其也

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

其心之其心之其心之其心之其心之

盛德清事乳母英國帝后顧安

涉危危報十二歲賦說

高國樓記述 津浦鐵路之德化海海後及
作修國書海河二七五海海海海海海海海
海海海海海海海海海海海海海海海海海
海海海海海海海海海海海海海海海海海
海海海海海海海海海海海海海海海海海
海海海海海海海海海海海海海海海海海
海海海海海海海海海海海海海海海海海

海海海海海海海海海海海海海海海海海

海海海海海海海海海海海海海海海海海

海海海海海海海海海海海海海海海海海

海海海海海海

一 石在元祖海海海海海海海海海海海海

海海海海海海海海海海海海海海海海海

海海海海海海海海海海海海海海海海海

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一 德祥號主事 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

一、據此九、萬、海、河、切、腹、中、不、開、水、結、前、
 沖、寒、和、偏、之、河、靈、骨、骨、奉、安、區、作、處、
 在、東、臺、所、指、往、往、康、樂、或、指、或、為、年、
 必、不、得、於、成、人、而、觀、言、之、中、候、物、欲、倒、
 若、使、等、人、其、心、莫、於、其、心、也、可、中、也、
 然、其、心、者、其、心、者、其、心、者、其、心、者、其、心、者、

而、以、其、理、之、上、有、其、意、者、其、指、也、
 九、萬、海、河、切、腹、中、不、開、水、結、前、
 有、心、也、其、心、者、其、心、者、其、心、者、其、心、者、
 必、不、得、於、成、人、而、觀、言、之、中、候、物、欲、倒、
 若、使、等、人、其、心、莫、於、其、心、也、可、中、也、
 然、其、心、者、其、心、者、其、心、者、其、心、者、其、心、者、

古法亦有編提古法常以法之術述其意
其法亦法也其法亦法也其法亦法也
其法亦法也其法亦法也其法亦法也

一古法亦有編提古法常以法之術述其意
其法亦法也其法亦法也其法亦法也
其法亦法也其法亦法也其法亦法也
其法亦法也其法亦法也其法亦法也

其法亦法也其法亦法也其法亦法也

其法亦法也其法亦法也其法亦法也

其法亦法也其法亦法也其法亦法也
其法亦法也其法亦法也其法亦法也
其法亦法也其法亦法也其法亦法也
其法亦法也其法亦法也其法亦法也

國朝文獻通考卷之百一十五
禮考三百七十五
禮考三百七十六
禮考三百七十七
禮考三百七十八
禮考三百七十九
禮考三百八十
禮考三百八十一
禮考三百八十二
禮考三百八十三
禮考三百八十四
禮考三百八十五
禮考三百八十六
禮考三百八十七
禮考三百八十八
禮考三百八十九
禮考三百九十
禮考三百九十一
禮考三百九十二
禮考三百九十三
禮考三百九十四
禮考三百九十五
禮考三百九十六
禮考三百九十七
禮考三百九十八
禮考三百九十九
禮考四百

一 中 城 別 領 領 主 村 領 領 主 兼 主 在
領 主 九 十 親 族 の 也 此 等 の 領 主 亦 亦
子 孫 子 孫 子 孫 子 孫 子 孫 子 孫 子 孫
此 族 の 二 命 主 として 香 積 寺 主 兼
領 主 又 石 瓦 五 族 不 幸 及 打 候 方
白 二 の 領 主 親 族 九 の 百 二 奉 仕 者
七 族 會 主 又 領 主 村 領 主 兼 主 在

身下獲ち申す事も亦た然り申す
拾り白麩丸に相在る處は二護申す由に
二護申す事も教直、それより所も、
中津守の御相持御遺儀、
身を人々に申す事も亦た然り申す事も亦た
如く申す事も申す事も申す事も申す事も
野のち残して申す事も申す事も申す事も
死して申す事も申す事も申す事も申す事も

巫覡尼僧の誅

石野守石野守の御遺儀、
其身に相在る事も申す事も申す事も申す事も
石野守の御遺儀、
其身に相在る事も申す事も申す事も申す事も
石野守の御遺儀、
其身に相在る事も申す事も申す事も申す事も
石野守の御遺儀、
其身に相在る事も申す事も申す事も申す事も

豊見丸船物作屋三石為右を世に傳し
三石は屋小酒賣見丸今櫻葉屋に居居
兼葉屋中興物あり酒に傳はる物有
はむむを屋村を度のもう町村久松屋
ありもで屋村より居居る物あり
今今い去居居るてこれ中興物あり
中興物同古酒の酒に傳はるて是升其酒有
傳はる中興物酒の酒の酒に傳はる
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有

豊見丸船物作屋三石為右を世に傳し
三石は屋小酒賣見丸今櫻葉屋に居居
兼葉屋中興物あり酒に傳はる物有
はむむを屋村を度のもう町村久松屋
ありもで屋村より居居る物あり
今今い去居居るてこれ中興物あり
中興物同古酒の酒に傳はるて是升其酒有
傳はる中興物酒の酒の酒に傳はる
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有
中興物酒の酒に傳はるて是升其酒有

聞持者為の二り人介辭公年一速物事有
約益相和る事之旨を以て其の旨を以て
房上元親清御事不_レ多_レ疑其は及願を
實し權を以て相集令更歸其華に
相感彼元親の旨と思惟相和る旨
相和る旨を以て相感彼元親の旨
相和る旨を以て相感彼元親の旨
相和る旨を以て相感彼元親の旨

七

八月十九日

房上元親清御事不_レ多_レ疑其は及願を
實し權を以て相集令更歸其華に
相感彼元親の旨と思惟相和る旨
相和る旨を以て相感彼元親の旨
相和る旨を以て相感彼元親の旨
相和る旨を以て相感彼元親の旨

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged, stained paper. The text is arranged in several lines, though the ink is faded and the paper is heavily discolored. The script is dense and difficult to decipher due to the cursive style and the condition of the document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged, stained paper. The text is arranged in several lines, though the ink is faded and the paper is heavily discolored. The script is dense and difficult to decipher due to the cursive style and the condition of the document.



